

公共機関をはじめ会社も年度末の忙しい月に入りました。子ども達も、新しい学校や学年に行く準備を始めなければなりません。教育センターで特にお願いしたいのは、心の準備です。例えば小学1年生は、11ヶ月前の小学1年生ではありません。2年生に近い1年生なのです。一番下の学年で、お兄さんやお姉さんに頼っていた1年生から、新入学児童のお世話をする2年生になるのです。そういう心構えは1日にしてなるものではありません。あまりプレッシャーをかけるのはよくないですが、3月4月は心が成長するよい時期です。お家でも、少しだけ手放してみてもいいでしょう。「かわいい子には旅をさせろ」の気持ちで。

<人と環境～富士山から学ぼう～>

2月22日(金)、小立小学校において、富士山をテーマにした公開授業が行われました。6年生児童73名を対象に、授業担当者は、教育センター特別研究員でもある小立小学校の小河原徳博先生、山梨県環境科学研究所から山口輝彦先生のお二人によるものでした。一時間半という長丁場でしたが、富士山に関する興味深い映像やお話に興味深々でした。山口先生からは富士山のでき方やそこに生きる動植物、現在の状況などを教えていただきました。小河原先生は、今自分達にできることは何だろうと子ども達に投げかけ、子ども達は、既存の知識と今日学んだことから、一人ひとり、真剣に考えていました。富士山が世界中に認知されると、当然のことながら、たくさんの方がやってきます。プラスの面、マイナスの面、子ども達なりに考えていました。見慣れている富士山の偉大さ、その麓で生活していることの幸せ。子ども達ばかりでなく、大人も考えなければいけないと思いました。



問題を提示してくださった二人の先生に感謝したいと思います。今回は、副町長をはじめ、教育長、教育委員の方々、教育センター関係の方々、町内小中学校の先生方にも参加していただきました。

観光や商業的な面ばかりがクローズアップしている世界遺産登録ですが、子ども達が、富士山学習を通して多くのことを考えることができ、うれしく思います。

子ども達の感想…

- ・自然環境を守ることは、自分達を守ることであった。科学技術も必要であることは初めて知った。
- ・これからは、なるべく車を使わないで、資源を大切に、植物を育てるようにしたい。
- ・人と環境のことが学べた。富士山のことをよく知ることができた。

子どもたちは純粋に環境保持の大切さや環境破壊の危機を受け止めています。純粋な心が、いつ、どうして、薄れていくのでしょうか。私達大人が子ども達の期待を裏切らないように心がけていかなければなりません。1日に1つ、環境や美化について行動してみませんか？